

冬に向けて子牛の疾病対策を始めましょう

【はじめに】

朝夕ぐっと冷え込む11月に入りました。子牛の寒冷対策は済みましたか？哺育期の下痢や呼吸器病は発育遅延につながり、経営に大きなダメージを与えます。

【気を付けるポイント】

(1) すき間風対策・定期的な換気

すき間風は、子牛にとって大敵。板やビニールシート等を活用して、風が子牛に直接当たらないようにしましょう。牛舎内のハッチ設置、天井高を低くすることで子牛のスペースを狭くし、熱を逃がさないようにすることも効果的です。

この時、換気を忘れずに。アンモニアガスやほこりによる呼吸器病予防のため、暖かい時間帯に効率よく換気しましょう。

(2) 乾燥した敷料

冷たく濡れた床や敷料は、子牛の体温を奪い下痢の原因になります。清潔で乾いた寝床を常に維持するために、寝床を中心に敷料はたっぷりと敷き、交換は早めに行いましょう。



(3) カーフジャケット等による保温

牛にカーフジャケットやネックウォーマーを着せましょう。

(4) ワクチンによる免疫強化

農場でよくみられる子牛の呼吸器病といえば、牛RSウイルス病や牛コロナウイルス病で、11～4月に集中して発生します。

下痢では、年間通じて多発するコクシジウム、牛口タウイルス病が発生しますが、牛コロナウイルス、大腸菌、クリプトスボリジウムなどとの混合感染で悪化する事例が散見されます。

飼養環境の改善に加えて、呼吸器病ワクチンの接種を行いましょう。

なお、BVDの生ワクチンを含むものは妊娠牛に使えないで、管理獣医師さんに種付け状況を伝え、ワクチンの選定、接種時期を検討しましょう。

各地域の家畜衛生協議会が扱う牛の呼吸器病ワクチン（一部抜粋）

	生ワクチン	不活化ワクチン
種類	5種混合生ワクチン、カーフワイン6	ボビバックB5、キャトルワイン6
長所	1回接種で有効、免疫持続期間長い	妊娠牛に使用可能、移行抗体の影響少ない
短所	妊娠牛に使用不可、移行抗体で失活	初年度は2回接種、免疫持続期間短い

家畜を飼養する皆様へ

毎月1日は、「消毒・点検の日」

～病気の侵入を防ぐためには、
地域全体の取組が効果的です！～



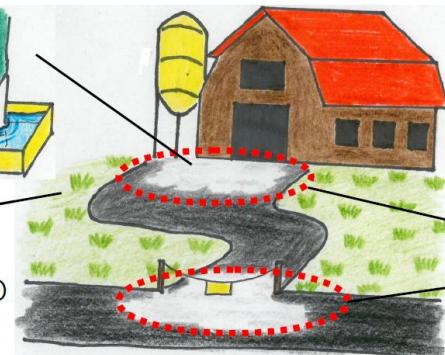
定期的に、一斉消毒を行うとともに、日頃の消毒方法や実施状況を確認して、
家畜の伝染病の侵入を防ぎましょう。

消毒を徹底しましょう！

- 消毒液の交換を！



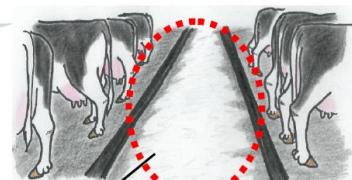
- 畜舎周囲の環境整備を！



通路

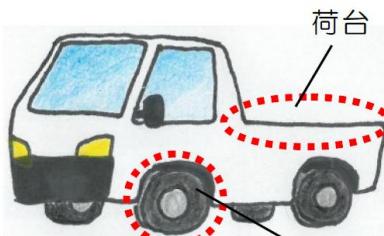
畜舎入口
農場入口

- 消石灰で真っ白に！



いつもの消毒の方法は適切ですか？

- 入場車両の消毒は？



- 消毒前の洗浄（汚れの徹底除去）は？



- 消毒液の時期、回数、濃度は？

荷台
タイヤ
タイヤハウス

手指
靴、フロアマット

「やったつもり」をなくしましょう！

- 長靴の裏に、汚れはついていませんか？



- 踏込消毒槽が汚れた水槽になっていますか？



- 一つ、だれが消毒したか記録はありますか？



お互いに、作業内容を確認して、「やったつもり」をなくしましょう！

岩手県中央家畜保健衛生所

Tel:019-688-4111

岩手県南家畜保健衛生所

Tel:0197-23-3531

岩手県北家畜保健衛生所

Tel:0195-49-3006

